

学校概要

創立 14 周年	学校長 酒井 浩明	副校長 田淵 恵子	学期 2 学期制	児童・生徒数 686 人
学級数 一般級: 21 個別支援級: 2		主な関係校: 中川中学校、中川西中学校		

学校教育目標

共に生きる たくましく生きる かがやいて生きる 牛久保の子

- [知] 分かる楽しさ、できる喜びを感じる子を育てます。
- [徳] 思いやりの気持ちをつなげる子を育てます。
- [体] 心と体の強い子を育てます。
- [公] 「自分が好き」「学校が好き」「まちが好き」な子を育てます。
- [開] 視野を広げ、国際社会に生きる子を育てます。

学校の特徴

- 本校は、牛久保公園や、せせらぎのある「くさぶえの道」、遊歩道にも隣接しており、自然に恵まれた環境の中に立地している。
- 保護者の教育に対する関心は極めて高く、また、PTA活動だけでなく、「おやじの会」も活動し、学校行事などでも協力を得られている。
- 創立時から縦割り活動(フレンドチーム)を大切に、近年、幼稚園・保育園との異学年交流を充実させ、「自分から」を合言葉に、思いやりの気持ちをもつ主体的に動く子を育てるようにしている。児童の基礎学力は、やや高い傾向にある。
- 学区は3自治会にまたがり個々活動は充実している。近年引っ越してきた住民が多く出入りも多いので、地域には学校への媒介期待がある。
- 教職員が地域行事に参加し子どもの参加を奨励し協力関係を築いている。今後さらに連携したボランティアなどを組織的に広げられるとよい。
- 学校周辺環境などの活用や地域連携を進めているが、経験の浅い教職員が増えているので、出前授業などのあり方も含め系統的に整理・充実し、指導方法の研修等も継続する必要がある。

学校経営中期取組目標

- 開かれた「まち」とともに歩む学校として、家庭・「まち」・関係機関や公共施設との交流・連携・協働の関係を深め、学校への理解と協力を求めるとともに、児童、保護者、「まち」の期待と信頼に応える着実な教育実践に努めます。(公・開)
- 教職員としての自覚のもと、一人ひとりが自己の職務と役割を果たすだけでなく、積極的に学校・学年・学級経営の活性化に努め、主幹教諭や学年主任を核とするチームで、子どもの実態に合わせた学習指導、心を育てる児童指導の充実を図ります。(知・徳)
- 基礎・基本の確実な定着を重視し、個に応じた指導の充実を図り、体験的な学習の推進や体力向上への取組を継続します。(知・体)
- 本校の研修のよさを引き継ぎ、各自の専門性を高めるとともに、学習指導要領の改訂を見据え、現在の教育課程の見直しに努めます。

小中一貫教育の取組

中川中学校 **ブロック**: 中川中学校、中川小学校、南山田小学校、牛久保小学校

9年間で育てる子ども像

- まちに住む一員として、地域とのつながりを大切に子
- 自分を大切にするとともに、他者への心遣いができる子
- 自分の思いを表現しながら豊かな学びあいができる子

自校の具体的取組

- ・地域のよさを活かした教育活動の充実と児童の地域行事への参加奨励する。
- ・小中のなめらかな接続を目指した、一人ひとりの児童理解に基づく、豊かな心を育てる児童指導を充実する。
- ・小中一貫カリキュラムを見通した、言語活動と学び合いを大切に主体的に取り組む子どもを育てる授業改善、授業力の向上を図る。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	○平成25年度からの算数と国語の研究成果を引き継ぎ、思いや考えを相手に説明し学び合い、考えを深めることのできる主体的に学習する子を育てる。 ○基礎・基本が身に付くよう、わかる授業づくりと個への適切な支援に努め、現在の教育課程の見直しの準備に取り組む。	・算数科や国語科を中心に、豊かな言語活動を通して、思考力、判断力、表現力を育てる授業展開を図る。 ・学習のスタンダードに基づく全校で統一した指導を継続的に進め、ノートに考えを書いたり、まとめたりするなどのノート指導等を大切にする。 ・中学年での算数の少人数指導において、単元の特性に合わせて習熟度別の指導を取り入れたり、個に応じた支援を充実させたりして、基礎・基本の定着を図る。 ・手順を明確にしたり、個に応じた支援(配慮を要する児童も含む)を充実したりして、わかる授業づくりをする。 ・朝読書や保護者の方々による読み聞かせを継続し、本を読む習慣を身に付けるとともに、豊かな心を育てる。 ・総合的な学習や特別活動等の系統性を意識した指導と改善に努める。
豊かな心	○「フレンドチーム」(縦割り活動)等の異学年交流や多様な人と関わる活動や「道徳の時間」の指導法の重点研究により、自他を尊重する心を持ち、自分で考えよと判断したことを進んで行う子を育てる。	・学習や生活、係活動等において、子どもが主体的に活動できる場面を意識して設定する。 ・異学年との関わり方や役割を学ぶよう、フレンドチームや幼保小交流等のめあてを意識させる。 ・牛久保の「まち」に目を向け、心や感性を育てるように、地域教材や体験的な活動を系統的に取り入れる。 ・自らを振り返り、よりよく生きようとする心を育む、よりよい道徳の時間の指導を研究し、指導に生かす。 ・学年一斉下校や毎月の登下校指導を継続し、校外委員や地域の見守りの方との共通理解をもとに安全指導を行う。
健やかな体	○栄養、バランス、量などを考え、健康によい食事のとり方を体得し実践できるようにするとともに、体力向上の活動である、1校1実践を継続して、『強い体』を育てる。	・食や体に対する関心を高めるために、栄養教諭による食育の学習を継続して行ったり、学校保健委員会で子どもたちに今必要なテーマを取りあげたりする。 ・体力向上が継続するよう、一校一実践の「縄跳び」に、体育の時間や集会の時間などに引き続き取り組む。 ・外遊びを奨励するとともに、体育の授業力を高めるため、体育実技の指導方法の研修等に教職員が取り組み、日常の指導に生かす。
人権教育 児童・生徒指導	○安定した学級づくりを目指し、全職員が他者の人権や学校生活の基本を大切に丁寧な指導をする。 ○担任が学年主任や児童専任と連携し組織的な児童指導を行い、いじめや不登校などの諸問題の解決に努める。	・Y-Pアセスメントによる学級分析を年2回行い、児童理解をさらに深め、個に合った効果的な支援をする。 ・児童指導の基本となる人権研修に引き続き取り組み、児童への人権週間の取組をより系統的にする。 ・いじめや不登校などの諸問題に対し、担任が主体的にかかわりながら、学年主任や児童支援専任が相談役となり、指導方法を工夫したり、保護者と連携したりできるように組織的に対応する。 ・挨拶週を継続し人との関わりを大切にするとともに、児童引き継ぎや職員会議の情報交換等による共通理解のもと、全職員が児童指導に当たるように努める。 ・月別生活目標をもとに、子どもたちに必要な生活態度について、全職員が共通した指導を行う。
特別支援教育	○特別な支援が必要な児童について、児童や保護者の思いに寄り添い、情報交換や共通理解のもと、全教職員がかかわりながら個に応じた指導や適切な支援を行う。	・特別な支援が必要な児童に一人ひとりに応じた授業や適切な支援・手立てを考え、個別の教育支援計画や個別の指導計画を立て、情報交換や共通理解のもと、児童や保護者の思いに寄り添った指導を心掛ける。 ・コンサルテーションや校内研修の充実を図り、特別な支援を必要とする児童に対して全職員が共通理解をし、全教職員が適切な関わり方ができるようにする。
地域連携	○地域の『材』を学習に取り入れれたり、地域行事へ参加を奨励したりして、地域を大切にする「まちが好き」な子を育てる。 ○幼保小交流や小中一貫ブロックの活動などを通じた様々な関わりの中で視野を広げ、社会貢献的な心の成長を図る。	・総合的な学習や生活科、社会科等では、地域の「材」を活用した体験的な活動を重視し、地域の教育力(人・もの)を活かした単元開発に積極的に取り組む。 ・児童と共に教職員も、地域行事や小中一貫ブロックの活動に積極的に参加し、地域とのかかわりを大切にする子どもを育てる。 ・幼保小・中の連携事業にも積極的に取り組み、子どもの発達や学びの連続性を保障するとともに、思いやりと優しさを育み、「自分が好き」「まちが好き」な子を育てる。 ・幼稚園での職員研修を継続する。

人材育成・組織運営

- ベテランの経験知やよさを引き継げるよう、三部会や学年研の運営方法を工夫し、校内研修会等の内容を見直す。
- ミドルリーダーが自ら成長し次世代育成をするように、5年次前研修や初任者研修、重点研究の関係を見直し、内容を拡充する。
- ・若手教員が増えている現状から、5年次前の教諭を対象としたメンターチームの校内研修に力を入れ、授業研究以外の研修内容も取り入れる。
- ・ミドルリーダーの育成に力を入れ、校外研修に派遣したり、校務分掌の配置を工夫したり、研修会や実技研で積極的な働きができる場の設定する。
- ・経験豊かなベテラン教諭が、自分のよい経験を若い世代に引き継いでいけるよう、学年研や研修会等でしっかりと指導する体制を整える。
- ・三部会がより有効に機能するように、教務会の機能を高めたり、主任や担当代表の力量アップに努める。